

た か だ こ ら む

ISO9001-2015年改訂版への移行を終え

当社は、1998年1月にISO9001の第2版であるISO9001(1994)の認証を取得してから今日まで7回の更新審査を経ており、その間2003年10月に2000年版、2010年1月に2008年版への移行、そして2017年12月に第5版となる2015年版へ移行し、現在に至っている。

取得から20年の月日が経過しており、システムの構築から要員の理解、また様々な環境が変化する中での活動の実施と「質」の維持・向上という点では、関係者は少なからず苦勞を感じていることであろう。その反面、しっかりとルールが身についてきたとも感じている。

さて、2015年版の適用前までは、「顧客満足」を主たる目的とする中、組織の活動の有効性や効果に焦点を当て、組織内部に目を向けていたところが大きかった。

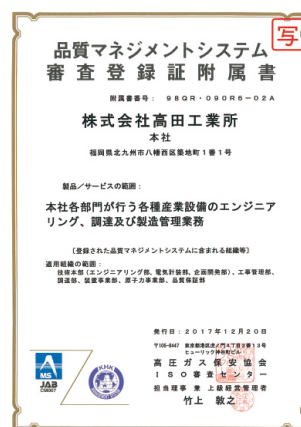
しかしながら、2015年版では、組織内部、外部の課題を明らかにして活動へ取り組むこと、また密接に関係する利害関係者のニーズなどが新たな要求として明記され、より一層経営的な側面を重視した考え、そして活動が必要となってきた。

なお、リスクおよび機会への取り組みという点では、従来の予防処置活動にとらわれず、企業活動全体を通してのリスク（マイナス面）を抑えながらも、“機会”，即ち“ビジネスチャンス”を如何に取り入れていくかが重要とされている。

更には「事業プロセスと品質マネジメントシステムの統合」も2015年版改正の大きなテーマであり、社会情勢、市場、顧客情報に即した活動が達成できるよう、経営戦略に対応した品質目標を設定し、品質管理活動から経営目標を達成していくことが強調されている。

そのような中で当社は2018年度に「中期経営計画」を新たに策定し、中長期的な活動に取り組み始めたところである。

事業活動を行った成果として、顧客満足と収益確保を達成するには、ISO9001認証対象部門はもとより、社内のあらゆる部門と協力、連携し、全社一丸となつての展開が必要である。



まずは3年後にこの中長期的な目標に対する結果が出るよう、日常的な管理や運営、そして監視と定期的な評価・分析を行う。

活動プロセスのパフォーマンス評価、いわゆる“品質の作りこみ”が妥当であるかにも注力し、更なる品質管理活動のレベルアップを目指したい。

濱田 信（品質保証部）